

二〇二四年七月二日

マネキンの足大胆に夏衣
リヤカーに汗の野良着の干されけり
エプロンを広げ裾分け新キャベツ

満天
愛正
千鶴

二〇二四年七月二日

魚道とてさ走る水の音涼し
参礎に散らばる藍は蛍草

むべ
ぼんこ

二〇二四年七月一日

浜風の通ふ広縁釣り忍
一水の飛沫に揺るる齒朶涼し
煽ちてはのけ反る風の青芭蕉
三伏や庭の散水お湯になり

千鶴
康子
むべ
明日香

二〇二四年七月九日

天を突くばかりに伸びてカンナ燃ゆ
青すだれ古都の路地裏三味漏るる
身ほとりにリモコン幾つ梅雨籠

澄子
智恵子
うつき

二〇二四年七月八日

猛暑日や人影の無き商店街
故郷のイベント目当て娘ら帰省

みきお
こすもす

二〇二四年七月七日

お喋りに夢中崩壊かき氷
御写経の一筆入魂暑を払ふ
雷一過風の生まるる露地夕べ
崩し方四人四様かき氷

康子
うつき
澄子
澄子

二〇二四年七月六日

熊笹の覆ふ小径を避暑散歩
不揃いの桃も優しく包まれて
目つぶしの夏日高枝剪定す
サービスに西瓜振る舞ふ村のカフェ
喬木の天辺さして蔦若葉

みきえ
あひる
うつき
こすもす
董雨

毎日句会みゆる選・二〇二四年七月一四日